

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現状

学校番号	32	学校名	茨城県立東海高等学校					課程	全日制		学校長名			阿内 勉				
教頭名	手塚 俊										事務（室）長名			鈴木 博幸				
教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手			1	事務職員	3	技術職員等	4	計	50
生徒数	小学科	1 年			2 年			3 年			4 年		合計			合計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数				
	普通科	49	111	50	106	61	86			160	303	12						

2 目指す学校像

・生徒、教職員、家庭、地域が連携し、地域社会から愛される学校
・一人一人の自主性、2つの自りつ（自立・自律）性を育むとともに、明るく誠実で、知性豊かな、心身ともに健康な生徒を育成する学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	生徒一人一人の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	自己実現・進路目標実現を目指し、日々努力する生徒の受け入れ

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導（教育課程）	・学習意欲、目的意識に生徒間で温度差がある。 ・基礎学力不足の生徒が多い。	・受験を含めた進路実現に対応できる基礎学力の向上 ・学習意欲の向上
進路指導 キャリア教育	・卒業生145名のうち、進学者は92名、就職者は47名。 ・国公立大学を目指し、推薦入試、一般入試に挑戦する者が大幅に増えた。 ・進路希望が決定できず、目標設定が遅れるため準備が遅れる。	・1学年から進路意識を向上させ、目標を持たせる指導が必要 ・学力の育成、推薦入試対策を継続、ノウハウ化することで、国公立大学合格者を輩出したい。 ・キャリアパスポートの効果的な運用
地域との連携 （保護者、地域住民等）	・部活動や生徒会の村主催イベントへの参加。 ・学校公開、東海村との協働（東海村とのフレンドシップ協定）。	・地域に貢献できる人材の育成。 ・村、近隣中学校等との連携の推進。
働き方改革	・勤怠システムの利用で各職員が超過勤務の軽減を意識 ・部活動指導員、外部指導者の利用による、顧問の負担軽減 ・8月を除いた月平均超過勤務の平均は21時間40分、月平均45時間以上超過者1名、80時間以上超過者は0	・定時退勤日、完全退勤日の推奨 ・超過勤務月平均45時間以上の職員0

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

- ・生徒一人一人の学力向上と意欲的な学習を促すため、生徒の能力に応じた細やかな授業を展開する。
- ・進路目標を早期に明確化させるとともに、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。
- ・基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせると共に、家庭との連携のもと、心の教育の充実を図る。
- ・地域社会との連携を深め、教育活動の充実を図る。
- ・働き方改革を推進し、教職員の組織力を生かした勤務体制を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
観点別学習状況の評価を生かし、基礎基本から応用まで学習指導を行い、I C T等を活用しながら授業改善を行い個々の学力向上に努める。	・年間指導計画表を活用して、組織的・計画的な学習指導を推進する。 ・I C T等の活用を含めた指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識の定着と応用力の育成を図る。授業評価アンケートを活用、授業満足度平均3.2以上を目指す。 ・個々の学習課題を提示することで学習目標を明確にさせ、生徒の意欲を喚起する学習指導を行い、学力の向上を図る。 ・多様な学習ニーズに対応した学びを検討する。
多様な個々の進路希望にむけ、指導体制を確立し指導の充実を図る。	・情報収集の不安解消に努め、進路実現のために必要な情報提供を図る。 ・就業体験(インターンシップ)や幼稚園体験実習、1日看護体験等をとおして、自立心や職業観を育成し、キャリア教育の充実を図る。 ・進学、就職のための学習指導の充実を目指す。
基本的生活習慣の確立を図り、社会に通用する自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成に努める。	・服装、頭髪、公衆道德等の指導を通して、規律ある明るい学校生活を確立するとともに、全職員が共通理解のもと一貫した生活指導を行う。 ・日々の教育活動の中で自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成を図る。 ・情報モラル・公共マナーの指導等をとおして、健全な心と社会性を育成する。
生徒会活動・部活動を奨励し、スポーツ・文化・芸術を親しむ態度と達成感や連帯感の育成に努める。	・自主的・主体的な生徒会活動・部活動の活性化をとおして、集団の一員としての自覚、他と協調できる豊かな人間性を育成する。 ・部活動の3年間継続を目標とさせ、技術・体力の向上を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、人間関係形成、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の伸長を図る。
地域と連携し、信頼される魅力ある学校づくりに努める。	・地域の行事等に積極的に参加し、地域との連携を深める。(東海村とのフレンドシップ協定の活用) ・積極的な広報活動(新聞、村広報誌等、各種メディアへの情報提供)により学校の活動状況を発信する。
働き方改革を進め、教育活動の精選と充実を図る。	・校務の適正な分担を図り、各自週1日程度の定時退勤日を設ける。 ・I C T等の活用により教材の共有化・業務の効率化を図り、教員と生徒が向き合う時間を確保する。 ・超過勤務時間月平均45時間以上の職員0を目指す。